

まつり再開に向けて

〜 広野町復興への歩み 〜

我が国におけるまつりの歴史は、感謝や祈り、五穀豊穡、神仏および祖先を祭る行為であり、様々な形態で受け継がれていきます。また、まつりは日本人の心を後世に継承させる重要な役割も果たしています。東日本大震災および原子力災害から6年が経過し、休止となっていた広野町内のまつりを再開することは、町民の心を癒すうえで大きな役割を果たすものであり、まつりを通じて人と人とのつながり・絆を深め、新生広野町創出の大きな原動力となりうるものです。今回は、広野町のまつり再開に向けての取り組みなどを紹介します。

意見交換会

5月10日、東日本大震災および原子力災害で活動を休止した広野町内のまつりの再開に向けた意見交換会が開かれ、出席者は鹿島神社、大滝神社、亀山神社、八雲神社の各氏子代表者と町内組織、NPO、役場関係員などが参加しました。同会は、まつり再開を原動力として心の復興に寄与するため、現状・課題解決への取り組み等話し合い、どのようにして後世に

継承していくか解決策を見つめる目的で開かれました。

各まつりの現状・課題として、担ぎ手不足、維持するための財源問題、文化財としての価値の認識不足などが挙げられました。このような課題の解決への取り組みとして、まつりの意義の再確認、文化財保護・継承の意義、新たな



様々な意見を述べる氏子代表者

な仕組み作りなどまつり再開に向けての様々な意見を交わし合いました。

東禅寺 大般若会

広野町大字折木字高萩地区にある東禅寺は、東日本大震災により中断していた檀信徒の皆様の除災・招福の祈禱大般若会ならびに檀信徒各家先亡精霊位供養施食会を7年ぶりに厳修いたしました。あわせて、東日本大震災の物故者の供養も

行われました。当日は、檀信徒約200人が来山し、大般若経のご祈禱を受けました。



法雲山東禅寺による大般若会

松本稻荷神社 新築落成式

4月13日、遷宮式が氏子7人列席の下、榎葉八幡神社宮司によりとり行われました。同神社は東日本大地震の津波により一部流失し、修復工事を行いました。その後河川堤防嵩上げの関係で境内の移転が必要になり神殿を新築することになったもので、神霊を神殿に納めました。祭礼は春・秋2回実施していましたが、氏子が離散し祭礼の執行はじめ維持存続が課題となっています。



松本稻荷神社新築落成式に参列した氏子の皆さん

各氏子代表者のまつり再開に向けての思い

矢内 光正 (亀山神社)

30年からの再開を目標にどういう風に取り組んでいくべきかが一つの課題であります。なるべく負担にならないようにみなさんの協力をいただいで存続していければと思います。

根本 仁 (大滝神社)

長年続いてきた伝統文化を復活させるには氏子1人2人だけではむずかしいと思います。地域のみなさんのご理解とご協力いただき再開できれば嬉しいなと思っています。

根本 賢仁 (鹿島神社)

どうしていけば地区としての伝統文化を継続して残していけるかをみんなで考えていきたいです。

北郷 伯弘 (八雲神社)

「まつり」の語源は、神さまに供物などを「献(たてまつる)」、神さまに従う「服(まつろ)う」などが考えられます。農業の発展・豊作を願い、奉ることが本来の「まつり」であり、農業の推進が「まつり」の再開ではないかと思っています。

百矢祭 (亀山神社)



亀山神社の祭礼は、5つ的に厄払い・豊作願いとして100本の矢を射る「百矢」・「百矢祭り」・「百矢通し」・「百矢通し矢」といわれる弓矢の神事が奉納されます。現在は1月12日に近い日曜日に行われています。

浜下り神事 (たんたんぺろぺろ)



浅見川の下流域にある男神の鹿嶋神社のみこしと、上流域にある女神の大滝神社のみこしが町内で合流し、太平洋で身を清め五穀豊穡を祈る神事で、太鼓と笛の音から「タンタン ペロペロ」とも呼ばれています。130年以上の歴史があるとされ、毎年4月に行われ、春の訪れを知らせる行事として定着していました。

例大祭 (八雲神社)

昨年、震災後6年ぶりとなる伝統的な例大祭が行われました。同神社の例大祭は毎年7月に行われていましたが、震災と原発事故の影響で休止を余儀なくされました。新しい社殿の前に神輿を出し、鳥居に大きなしめ縄を掛け、再建された社殿で榎葉八幡神社の神職が神事をしました。

